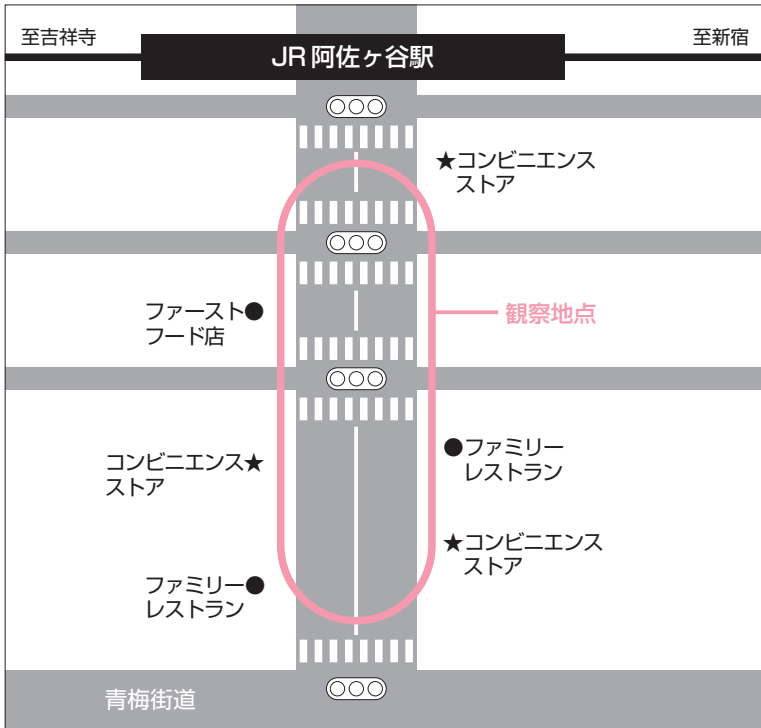


Q1

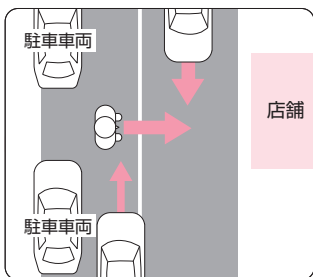
1時間に駅周辺の道路で横断歩道以外の場所を渡った歩行者は100人より多かったでしょうか？



- 観察場所／東京都杉並区阿佐谷南1丁目「中杉通り」周辺
- 観察日／2005年9月15日（木曜日）
- 観察時間／18:30～19:30



通りを隔てた店舗をめざして、横断歩道以外の場所を渡る歩行者



Q2

駐車車両の間から道路を横断する歩行者を目撃！
事故を防ぐにはドライバーと歩行者が
どのようなことに気をつければよいでしょうか？



Q3

片手に杖、片手に買い物袋を持って横断歩道以外を渡る高齢者を目撃！
何が危険だと考えられますか？

歩行中の交通事故死傷者の半数近くは子どもと高齢者

平成18年の歩行中の交通事故死傷者数は79,939人にのぼる。年齢別では65歳以上の高齢者22,203人（27.8%）、次いで多いのが15歳以下の子ども16,430人（20.6%）で、両者で全体の半数近くを占めている。10年前と比較すると、15歳以下の死傷者数は0.65倍と減少しているが、高齢者は1.17倍に増加している。（警察庁交通局資料）

こんな事故が起きています

道路交通法

横断の方法

（法12条第1項抜粋）

歩行者は、横断歩道がある場所の付近では、その横断歩道によって横断しなければならない。



……実際に観察しました

Q1
の解答

多かった(140人)

●横断歩道以外で道路を横断した歩行者・自転車



※子ども(小学生以下)、中学・高校生、成人(18歳以上64歳以下)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による



携帯電話を操作しながら横断する歩行者



親子で横断歩道以外の場所を渡るケースもあった

1時間の観察で、横断歩道以外の場所を渡った歩行者は140人だった。

特徴的なのはコンビニエンスストアや飲食店など店舗の前から横断するケース。歩道には「横断禁止」の標識が数カ所に設置されていた。しかし、横断歩道を使



道路を斜め横断する自転車

わずに歩道を目的の店舗の前まで歩き、そこから横断する会社帰りのサラリーマンやOLと思われる歩行者が目立った。クルマのドライバーも店の近くにクルマを止め、反対側の店舗に向かって、横断するケースもあった。携帯電話を操作しながら横断する歩行者は、左右の安全確認が不十分に思われた。

また、横断歩道以外の場所を渡った自転車利用者は1時間に19人観察された。

Q2
の解答

駐車車両のすき間から歩行者が道路を横断してくることを予測する

【解説】 夜間は駐車車両のすき間にいる歩行者は、ドライバーやライダーに発見されにくい。また、道路の反対側に店舗などがあると、横断歩道まで行かずに、目標とする場所の前で横断する歩行者がいるので、ドライバーとライダーは注意する必要がある。

ここがポイント

- ドライバーやライダーは駐車車両の脇を通る時はスピードを下げる
- 歩行者は横断歩道のある場所を渡る

Q3
の解答

高齢の歩行者は左右から接近するクルマやバイクに気づくのが遅れる

【解説】 高齢者はうつむき加減で歩いているケースもある。そのような場合、視線が足元に落ち、視野が狭くなっているため、周囲の状況を確認しにくくなっている。また、高齢者が歩くスピードはドライバーやライダーの予測より遅いこともある。

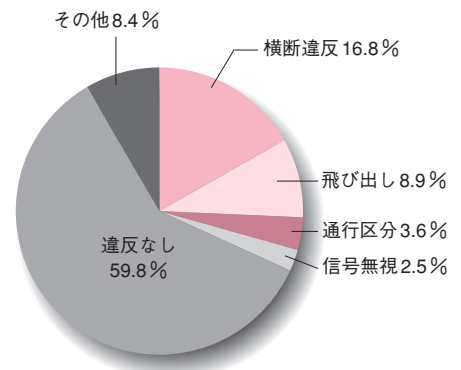
ここがポイント

- 高齢者は横断中に急に立ち止まるなど予想外の行動をとることがあるので、ドライバーやライダーは十分に注意する

ワンポイント DATA

歩行中の死傷者の違反で多いのは道路横断時の違反

歩行者(第1・第2当事者)の法令違反別死傷者数(構成率)



平成18年の歩行中の死傷者数を法令違反別にみると、道路横断時の違反が16.8%を占めている。その中でも多いのが「横断歩道外横断」7.3%(5,600人)である。(警察庁交通局資料)